源氏物語 下

贈 父兄会卒業記念
寄 昭和五十九年度

0931
71
3
年 月 日
佛教大学蔵書
第 273097 号

保元物語巻第三目録

義朝幼少のおとゝことくうしなはるゝ事

并北のかたみをなけの事

左大臣殿の御死かいしけんの事

新院讃州にせんかう并重仁親王の事

無塩君の事

左府の君たち 付 むほん人をん流の事

大相国御上洛の事

新院御経沈の事 付 崩御の事

ためともいけとりをん流にせらるゝ事

273097

て面てんとて御むしりあつてくと
とやきはをわつてわつて面をる
さ面ぬんてれつまぬとをとをまれを
いをかはちいぬまを御をうをとをまて面
けをひいをまをくもるをしくをを
おりひいをまををまをぬぬををををり
わををひけをまるををわつまをれを
ををいをのけをひををしをまをしてを
くをうをるむをひけいをけやくを
ををみをる面ひけしをかをかをけくを

ををけ面をををれをれをまを大をやを
のけをりをねををを面面をを行ををけ面
ををりひをををを面をるをりををを
ていをを面ををりをををるををを
をを面をんをつをををををいけくをおり
をけををををひをををのををけををを
ををて大をいをのををやををををを
ををををををくくをををををを
大面いををの面の御をけをを面をりをを
きのをのわをつををを折ををををひをき

御女房たちと八郎御さうしの御
四人なるものとれうの女房とをかの人なり
なりけりとみえてよりとしてをり
をりて御つりとの君たちとうし
やうとてわしう御ことをかし
御つぼねしてちをそまつねやう
をかけをまとの君人をかの御つぼね
といひ御ぼせかりをまとしてのをかけ
おはせをとをそをしてみる御をかし
をしやうとは四人のをくをとをとる

うしまとかりをれをなをかるわるをの
下野をかしをとをつていをるをを
らをといをうをしをまをつを四人をとをを
をかををををつをを百姓をを御さ
をとをんををのをとはををやをさをの
をを御い十一歳ををををわを御をにを
一をを人ををしををををるをををやを
をををををををををををををは年
十三ををををををををををををを
ををををををををををををををを

ききもやいきゝもすこしそやうまかくなうし
かゝるすゝとのきまよりのこる世のなかとり
ともまぬ御人々の行きゝともかくいきも
御りて七十よ歳の老父の病気よりいてお
家にんとひしてきものこそありのこと
かゝるきる御子の妹にく人のましてまいり
しときとけきまのすあらしあそ
まゐらうすゝすしのこゝろのはなる笠
い清のりかわさんゝてそあゝんお腹く
おとしとうかひてきまゝ一人かゝるし

てのちすの流井てよはるかさんとは
かうふとおもうしさてきまく猶まうあらしと
きよ御りんけそうあしけも二三年とも
うしき御りしおかれかしうとゝと
まう御れとうそてよくひし物かと
みんちうしもうるわいとんとみそとよさて
しちてつもまうきき御ひてけらうち
まちる源氏の世をもとくみんすゝくそくち
物しなきとて二人の身をまちみても歎
のひそ文もうきまきゝひねくもう

まうけおりし海さんわうまうちもらる
こと甚まうさひ給ふさけとしうけ給ふ上
へ于経文にこえなす甚いハ海いさて一両と
んさいの順化さまをわらしたる甚いいのち
まうすうりまうりそてこそはしきはらうり
の君とありてそうしてよ海なれ於けは
わ甚すそまゐりし文まいのるをとよ
とくるまいとさて甚んは家のまいら
まいらしよく我り文をはしくいたて
わしよむうけそく南無阿弥陀仏とく
うへて西方安楽国よりむかへとらし文御
きんと一つらとものよむ甚わひまいて海
なくらんと思ひ上へいとおもひやうるの者
いにしへの君まいらせのつくわしよむうけ
てまくとわつもらいをらしける者をわつまる
菊也をとみて女中室人の隣ハりのとうるそて
とをねらしける君まいらるとすへし
一人ほてあのと共待まいりけり内能参
ありてんを菊のめのと吉田の少将いうよ
まうさみし渡しハ隅田川東の後家少将を

とりとりのしかのやさしきまてゝこゆひ
あをわせのこひをしけるうとしてろ
をしけるひさかたのようそをけて
まつてをくいはとうたりとおのひける
ふしてそうのまをされいてをとあけ
てをけはいりのわをををとをれるを
ふくとををとれをつる秋のひまよ
つもわはるをみをのろはうをけしをを
をあつまをおのひやををおつまををを
をのをけをむうけをををてをは

きをとおのををわををつをはをれをふをり
はちををををんをむをんをりをみをつをを
をはをいをれをとををるをををうををは
ををはひををいをををの秋ををとわひ
てをうをろはをはををいをのををを秋をを
ををををををとやををるのををををる
をちををのをひをををををををはをる
ををををとをををひてををををすをを
秋をはをるのををををををはををを
をををををわををいををのををををひ

とのことをまいりそうらはんとぞ
さぶらひのけぶそうるゐとそしのうしろ
ゑうをおつまむさんのものをやうよ
ほうらくそれくむさんそくいゐ
しゐるゐ命ゝるゐ御所のきうう
なけぶそゐゐんその中とうそおう
そそとうぶとをつういけちとゐし
てくけちるうゐるゐとくいうんそうん
まつそくそのあうているしうやうの中
というんようけそしみるゐそうまうんとうん

よけもてをとうゐりそうゐけされぶりの
のみうんしんうしゐていうゐ御所お
のけさへ備まいりそまうしるるゐしゐい
うんとゐとはうれゐつうんといゐそうを
いうるそそうちうちゐそ二人をうを
ゐううみゐてうゐまうう御人そうゐ
るまゐそそゐひしうけううそそ
そゐ御しうるまううゐ御しうそ志
ううぶしうはおの中をゐゐけす
うみをゐつをそそくゐ道ゐのうひ

さま〳〵にすゝ給ふらんしけるはさらなと
しるのりつるかりかりさもは悲とうさ
こゝろさしそ海つもとて身そのひとひ
かみとうさは給ひ秋つこと申してけり
さうひのやうんをわもて別しけるに
つゝこもそてとのしくそれをとうれつけ
てもあけて海つるさまひはそりさゝ望
みでやはゆんをうあやういけさ御をてよ
あまりあいつのるいさつもかをさいこれを
さあとはさまつひるとりし御らんまいらせ

おんをもそもあをりさまうひはえらうしま
かうて給ひつん御あさけれは別色さまて海つ
あさて一のさいひれそてますて給色廿十年あ
まりけるはうりまちはさまちうるを海
いつしとうあますしも給ひつわするさいこのみ時し
も御をんさんけは入ねいさすそ御らんまうし
まち給ひつしうちまそてもうつは八幡の御ならひ
うとたりそていうしうれあけてふおりし海
そのやこには一世のちきりとやせうて来世
いかなしそれくさちきて女海つりあつや

さる御宿願有しとて八幡にまいりつゝ
まちとせんかゝる事をんとくしとて三人
の死ざいの中より一人うけ入てわしまむらひ宮
御三十番のつりやしきもとれにてひいは八幡
度ごとに御ちかけなる四人のものともは
そぶらうてもとよりもふかいしらぬ者なれとて
きれてしんよりわづかなる網をとりておろさき
させ給ふてとりあげ海上にしづみけど
ちいわひくりてなすきあかくとりあがり
こなけりて内院平安にひきてまきめひとひ

て天よりのゝむねとかうちらくしにわたりや
けるは此君を御ひて給ひてわたりし
まり後一日御んしもちつきまいりさる
事なしまうむねのそしの所のある事と
いひけいつすみやくしてとみやきさもまへ
とわきとりもおのひてやしうひまいりて
月日のたくよわかするつらせこま八幡ら
うゐかとみある事のかきする所のそ
まうひきのんをいうれやたかひてひきくと
うて八所の人となりて四とと衣とま

物をくゝ[illegible]とゝ[illegible]ひゝ物
とゝ[illegible]ゝ[illegible]ねゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
御丁[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ御ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ていけゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
くゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

いまさらとてはかねんてそるうりけ
はてしそもそもするおよつすわまりる
又とてしーうそれいてそんくー
一おそりてのあとのうけそそそうけと
けあ

おあるけそまち一事

去ひとる秦野の沖御いそれいち云
条ぐうこ海ってりそまいあいまとけう
うりるーうてへ横ちうこをを行よ
あの井海東のをうて海ってわーうり

のうけるうりそしおりてうーのるこ
るうりつをいあそうーそそうふそけ
及利皮及いいいこんあて御出家うて十
七月のあうふううのあれ御のこんわうを
牛海ひりーとううーとふ海ひらうて
海うーるりうあ牛海ひりーるを天
氣御のう拾あうあ牛海ってきけ一の
あうふ七条うあーしやーうそうひまい
しそひねあこの御うしまうをを所る
のこを海ってるおあ海ってうりあうしうれき

まむ(た)てまゐりんね六条殿よりまゝらせ候
ひつ出四人の君さまにもよりもそゆ山よりて候
今のしかひやは色いとよわき御前の御
さいこの御ことみとおほせらせんとてくゝんの
こしとゝりおほし御わりを御とくりしを
かうやしらぬ御事へ色々そうしまいらせ候
かう候てかいうしもんとてもなつかしさ文
まいらせ候しかゝ御返事しかわりてもてなし
たのも御まてけさへ様へ御ひつめて判かた
やすゝものまいらせ候　民部よりまいる

まいらせ候はまとうけてそ御ひまし候まゐる
しらせねらん部よりねのみくまし候よ
かあゆしとおもひまいらせ候物への御うへまいらせ
さしのまいりそそのしてさいこの御もてなし
とこ一よとまゝらし申のくやしさよ御事
御ちまいらせんくよさも御いさんと
いたしと存まくなそうしてはいりなる
高よ申しこ見まゐて候まいらせ候こそ
けかうしまゐらちしなうらんとて
こそん御しと御そしわんしまいらせ候よ

いま大蔵殿のおうしくらのすけらん
せうそこ一人のりそのもの
いこしのりてそこにまいりたるそこ
はかりもうくとしのるうらいこ
まうるのおうこそまいつまてはれ
そこにはかりせはしのおそ
そうくはもなるうらはとるそのはも
りとはうこまいまりそこりおそのの
まそこまいまそこ人をしこ人をはひしる
をうこうるねいけらそこみるおのひ

そうとはこうこうりてしこまとそ
ようはうんまくまくはそはきと
らまそはもしはてりはれ
はりはのそこそこはそこはこ
ちまはひしそこうまるそこ
てはとるうんとそこはひるまの
はうけるひるいやくはのはそこの
はうくはやけるいはうけるいはる
はまはいまりそこはまはいはる
大蔵うひるまそこらはのはれ

わさんはつきても御さ海ゑてとへさせ玉ふ海
ひて一まつらはうるふ御あとをとゞめしひは
つもらるへくもあり御留とゞくらしるうせれ
ひるいうるふ人の御ゆきまちいよゝ涙をぬくうし
菊人ふ御車やせられいなき大ゆ夏の小のうちて
御さ海とうへさせ玉ふ海上平家馬乃きけ夏乃母
房も女人のうちよれくまでさてそんさく
お御しろすきまてさ海とうつてすそれ
りし海様させとひ御いのちとうしるふきも
六代四まの思ふる大かなもし君まちらめそ

おひまつせら留し車のこめ留せしうつ
乃子みりなうしらとみん海ほらし乃ちま
まゐるけ急とをしとしゝるあとまり
手くし手まりし楚人ありつてなく
さん手よて海つきいわりもさよそいおりん
そもの子おわもてさ海とうへむまいおもうしとの
うさる留のりのと六のねんいわしもうい名
のうそいあおるく楚留す海しわうさんな
つもてい手よりすし入道のつまのとみて
うみてといつまんすもろうしそめへ

人〻一旦者と物語しへれ〳〵四郎あらたまるとて
ていとらるるをよくてこれとのれて
のわるうあるをそしらしお家とうせ
て月日をすごすこそうして年ぜい
をあくとんとあの通をあのよ
ひるわんをおのれはさうぶのとうん
ぜりい我をもをはとあうるうん
とぜいうん沈みてあをしてにそ物
しくてうしくそうをんのあるを
けるくたうんをしんうし物と

うん物あるひとて我あのをのとおり
あるうんてるけぶのあをうーとたうん
ん沈し物ーうあうをひあをけこそい
金仏しうるかうをーをく何方
をなをきをあーとうくるなく
ををてをうをいくはせそを
のをくとをいとのをあをとの
うるうしくあーうるうとぶをを
ををををあるうしうんをわるけるい
あとうとてうくあのとの用りをくふを

さして河内より大臣のもとへ納言よりこし
かへらんとするにかれてかくへしと見
さや右よりかくとゝし入道よりかうしも
四人の君かへりのかへりて思ふうしく
物とふあはりくよ右に今ほねてひかて
かし入道のかせかう海ひし此入行かうし
さもて思ひとる事もなくかうる刀杖なと
あるし又年とくりかへり候同しく
まてしてあらんともよしかるらく
りんとんとかうれはつしとてたい日当

承和三年八月二十日の御かゝり一万遍とよみ
かと日まての事ゝてよいゝことおりしとや
かうるえりかへりいおされさのそのそ
わそひ物のらんはつもしてもうらてい
とわりしなとおんよんとかへ思てれ
たかしせらるゝおしけれいなくえてまん
しそ聖昊かへりうも思ひくとんとてい
とせるかへりとくとかしあらとてそゝる
しよらかとよきに上りとうけてれみる
らかるくるまりの上からのところ女房をとゝ

浜村て海へそ入るけるとものりのとしを
とらへておてさりふらしてもいけくみ
ねきともいしとおほくまゐりける人すな
ひかる程にやなかてとけこてみえける
みすほとくしをるかみたなるとりある
て二人なからもるりとその東島へ山のはに
まとなし参りて海けて投いとけりと
さんかりしまそれさきりる梅れとりて
ありしく十人わしさの南にてきえ投け
いこまひいかて海へそて二人の女りを投ふ

一乃乃梅りとまうち此ほる生死むしや
めてとりりわりきらりしまいまそ形り
右大臣殿御志のいとけりれんの年
さりほとれ水一日午のとてりりる潜に二人
らんし一人自殺のかもむひて右府の志のい
とまけもんてそまくろうへさつけとしのるき
よしのりとかりらんしい右史生中原のあの
せその事い大和のそうのうき此郡海上
村さんかの社の三昧せ依りりひてへ一河
いりへて奥の法華のりなりけ来まわくし

きたるわりけ面と塩ぬりてら是いるる
いまこれいけるもてみくそそ一わりる是
そそのうちもみえるそのほうこち
ゆゆりるうち拾てえりるけ面世二百
五拾九貫目ちいくちくるん右ちる
るるちるん中間をりるる日年とて
そもるれるいそう三ちん九年ねそるる
う十九ちい四ちんのりるるちんしゃ十ちる
をりそ毎一とのくうる紙と一ようて
おゆち箱家面より口うを是けるる天
だしおりゆるするふけそのこわりてる
うてゆるんちんとゆけるいるるるる
ちら是うるすとるけそ面りる面てに大
だしつを面うおりそのるそるる
ちるいるてけるる是んるるいけちゆ
ゆるん半とうるとるりそ一ゆて
しゆゆいる面とそ面りけるるりをを
るけりけゆゆいけちるるるすこうる
る面るるのるちるるけてるんるゆ御は
そるいるとる面ひそてまけるんけち

ちよくし大臣の御うちにむかひくさう
いと何りなくしてみちのほとりにさそて
とくとらんにまかりしそもやいかり
なしなく文皇何よのとはるおほするその
ことのこをして今る二条の御でとおほ
さんならてね何とすとの守まへは入道殿
は昨日の事といはて許しもしく御前て
もらしてわりし御せいそれとおもひて
よそ侍なるとなしさへてまなうり申す御
そしるめて給とるしさらんせてりは

ねしなの事してそわをいの秋なわり
さ御まてしいと道ましひてしていなきゆるん
てちのわとはきよんをはれはさねうなてち
るみす世の事をしもしんありつうましくなれ
いらふあと御ても事そいれのはちゆする
しさいまてはもあらし守とひとんにく
そなみのし御ならきよくつりそてこうん
あいあへはそうのなんの事しわかなる
んうんのうとん宮帝はさらてさてき
しろとてていらんわ良いごくまてかく

くり井ゐ所あるそり右大臣とよみ
大さいのそりのうつさまをやりなまとも
き京と拾ゐ面さまてゆやすくしひ拾改の
くのるいてまりうゐ面ゐくしをある
そう毒日大明神をてさせ申ゐ
いるとうやすれうれうんとおゐて
あくそうれそゐ面一てそわるまるれう
まいこの御んとやゐるんを拾くとや
おゐしうんさうるくうのりをもし
やまゐるす

野滝御とんうけ申事重仁親王御
去ゐるよ今日蓮ん右大弁をけるう
まんをんとうけやゐるりくに和寺一ゐ
りり明日ゆ三日野滝とさねきのうゐ
けしやまて面つゐ面ゐのしとさるのんを
滝とうこけてさせやまつゐるすと
いゐくゆのうるまとと日わすといお
ゐしさまゐとてうりゐ面さくく軽役
ゐるりて申ささゐ面ゐまくうい御んゐく
おゐしうけゐ面わまりるくそうちを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きまゝ御法度にて御ゆるしなきうちは
ゆるされとゝのさゝの武士の方へ
うらゝゝとも御車とゝまりてまつ
出家ゝもこんとれらるゝのゝそ
まつる後御流ゝ見れば出家ゝも
ゝゝとゝまりてゝぶらひ
御ゝゝ日ゝの御ゝゝはひゝの
ゝ御と願ゝんゝのゝゝゝゝ
庵ゝより御ゝゝんゝゝゝ
ゝゝんゝ出家ゝ方御流ゝ
ゝゝゝゝ

わやゝけゝゝゝゝゝゝ
ゝ御ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

なに潟うんいとれるまゝにそれを海と
よみんちういきまゝしとそりせさい
安堂寺隆の国師らるゝをもむをそうけ
たるとて十とれ月とるまいとるるいち牛と
いれ一面のうえとそむけをそまるを
をそをそ師をうるるむをりををまゝよ
そ月ひのうをそのえけるををとうけを
海のるけいとの海一ををうるををひ
の神をうるなら一けるををうるくるを
鳥をのうをみのりん一海りおをうし

をををまるをあをうん師あるをひる武士るを三
人と海るををを年の浦をを師あるのを
をを海るるををけるりををねるをれ
をを師るを海るを一りしをうるちの
て海りるるいをんちるは月をのるをけ
りるるりをるいるを海りををは月
るをいよく師るを月をくをれ
月ををるひの法師いをるをるい年
のるを一をを月一て海いるを一をの
ををくは月をのるをけををるをるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の雲松山といふあるをうえ入まうる
[illegible]をそれい事る物をてらやうとし
しく物をけをいうくみん
演るとりわとはらやうるうえを
ぬいまつ山ひりねとはとそるく
野隆仁和寺とおうをを海の所わとん
事あれ事をををり清りをを
海中をてをんをんをて海事ある
のらうをを白をこわうをとを
てををいるんはくをちらをと変
のをんうるのはうををくるらけを
よして法ん[illegible]おりしをのてう
ちををけをのをををしを原をを
ある以物けをを物事ををいをを
海をを世のををををんををを下わい
てをうくを事をををやをて四恵をを
せ海をりをるをいをを上れををを物
先をてをる事新設ををををををい
うくをのくををんをるわわくををん
をんてをいををんをわをくををわるを

人をもよおしてこうぶよしとて和さ
ゆうさまその日彩院の中のみてしい
のうさまの御わるさまてら見さまさま
文庫をとおかをねとりてをんちを
らあわあ物をんこの中よりをとこ一うさま
御物をとけををもて御ひさうとれを
えををまてをうねををとりてさ
んをいをするつちをいらんわあり御
むさまのきる楽その中よりをしく
ををそれつをををのををしてをを御

ゆうさんわりをををしてをんをきあ院
をををとをををれををけををををを
ひををわあつをりをを御をををを
をすをんをおけをををりをををそれ御事
い我弱ゆは安明せををを二代のをんをを
をををををゆ門の海院をけ井
を御をいををけををあをす御意を姫
ををけを見ををれをを御拝をみを
けをを御をんををををしゆ院海姫
所の御ををををまて御賞天暦のを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のうとんとうとんよくれくるを
んるくいさいとわいまこと十若とうを
はせしいまこまいとうとも御私うく天下代
おうちのつのふるわしりるおいまとそと
そとて私はるいるうしてまとうとしいる
おのみうとうしいせ言とのしくさる
を私人の思いとうはそのてうはそうを
うて世代御しいもるるわりたるいを
しうてうて代そうしいとい就のり
ちせうるすを花をるいるをもみ御るを

私をうんて新代ひとくうとるいの国の
みるのうしひとうとれ私れはくし
て国車の太るわまこれりいるさいうん今
うるうすみうるるるりや待ものんの代
うて書ものい折せ物というちそうり男
私と三そ海一うち私うるるや私を
い美国るそくしうて新と君うる
ひうしうはうるい三物人のひん二十七の
世物八十一の世御るそうち君とそうす
けるるうして待るをうんくうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さんていの高きまつてやはらかしやく君
うのさしくわすれとやなるこくしの物
なほうるんまに代わりてもつてこと
まり宣旨とるうちさんそいる酒盃
とあつけてもとすす時ふ若のうる
人とれはひとひとひなるうち宣いまに
望とか一そ海ゝす物人をいちんとも
ひんてもものとうけくわやうしいる
くと宣旨ゝせい宣旨の中とのと
まつそ祝うくいそ敬ときうんあこと

一ていくたまいとえ天下より君子を見とそ
あるえいうんのうち見わりあるうやそのの
てきをかゆは三国のうんあり内の海
おのわつまりとそとと表秋軍せり
いうあまてたるそうちそあるうすあく
をうくそすを見て物人とはわけむ
このむとうとあひまりてそうん
むてふわゆくせりの一てんの中か
ふそうい社ーよくうけまうし色一あう
うのさんそうとはてそこうとうとなむと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

大府の君子ども、幷むすめ〳〵、孫
同廿四日〳〵、物ゝ御のすさびせさせ給
ふ事の次、入道ひとりのうるはしき中
将御さうりをこれうるまゐりて、入道
さうのうる御さいしのうるとて
やうやうけふたちかへりこゝ中納言のうる
日数いとをとをとおぼしけふとうる
まいらせ給ひ一定とをとをのひてとをう
をりのより入道殿御せうそくを御
いらせ給ひけり

一日左衛門督御あと御うりあるべき法師
ん中ん御わりわりといとを御をには
をとをとをのひこうををむうををし
あををいをんの書年をとあんてうをとれ
のををををををををのををををををん
ひをとをのをけてをうをる百里の書状
をををををんををををををん中いをいる巻の日
ををやあん書をあををんいをの状状をを
ををん御ををををけ中をとををををを
むををををを行をををををんをををけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

保元々年八月三日

後理の右京亮後正五位下行左大史兼筆博士

右辨官下正五位下藤原朝臣

大政官府

治部省

應令還俗大法師花長事

右正三位行権中納言右京大夫藤原朝臣

宣奉勅花長座事

きのうの能法師ども〻〻法師なるわ

てまつらんとこそ申すなれ

さうちすてさうてさうれ法師なる

保元々年八月三日

右京亮後正五位下行左大史兼筆博士

右辨官下藤原朝臣

この花長法師いとおもしろきこと

ものゝ〻ありさまなどはすべてあり

とてもちわるとこそいふなれ

なれもしかるべきにこそあらんず

るものこの法師とひ聖とこそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てのみ申とわいはるなり

大相國御上洛之事

さる程に八月ごろからの大相國家家
よりさまざまさまざまのぶよりゆくや
さまさまなるも天氣悪敷ありまつて人
面白なくてあくさくとのよそ行ひも
なくて能おもいかいさんぶすりさんもな
らはされい法面実白敷ぶすりやせは敷
ちとさいあつりてそのゐ持寄とかる
まつらん申ちんぶくるぶすりはなけ

れい法面ぶすりはさるりんと実白ちるる
やうさまいされつてそわちとわはな
るりさまいさんつくぶすりときさつて
て実白大ちる申と毛ぶはれはりひけ敷
物とはかちるはなるはるちはすとる
ぶしんとて御ちつくいわりさ三月ち
ちと世代物さまさまなるて四ひて四表やり
さまさまなるいりてくるの御さまる
る程ちとさんせい天狗地獄のちくとけ
とくく物りあるまつて三世の法御はれと

ゑくみ海ゝしてそうこせそうゆしけるゆ
ゑ御さまをていわりゑんとて実ゆゑ
ゝを御むこしるゝとゆいてとらをそれて
御おゆとておそゆゆすうゆせゆわやゆ
ゝをせそゆゆ御ゝ拝ゝうゝうゝてゆゝてゝ
御ゝゆゆゆゝのゝゝゝゝと御御ゝゝと
ゝてくゝゝゝゝゝをせそゆゆしゝゆを
そのゝゝゆゆ通ゝのゆんゝゆゆおそゝゝゝ
ちゝくゝのんゝゝゝゆをゆゆゝ拝ゝゝ
八十四ゝゝきゝゝけゆ

新滝御殿ゝのゝ年分爾御女
ゝ滝ゝ新滝ゝ八月十日ゝ御下ゝゝ
ゝゝゝ御清ゝゝゝゝゝゝ御ゝ
ゝゝ御ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

拾くゆるまとをらしわらけとをま
むるようをむりのようをんをくかる
のりのちるうるうしばちるををんまと
ようてさまゆ〳〵わるぶのをのをさ
ぶるかるくしゆんをんてくをるようを我
ぶのゆるけきようををるようをんぶをを
まるりをををををくをちのゆ〳〵を
ゆをををををいる〳〵ゆんるりかりを
ゆを我るるる神餐とるけて天るれをと
ゆんの太上天皇のをんるとるるゆて

ゆんゆのきるゆをゆるけるを流ゆるいせる
ゆるいるるりるは蕃様のるりをゆるる
ゆるををゆををくゆ〳〵ゆのをゆ
るるゆるりぶるをるるゆるゆるゆるゆ
ゆいをんるくるゆをゆをゆゆゆゆゆゆ
をんるるの月ゆりををゆる三年八年と
ゆりををゆゆゆゆとるゆるゆのゆゆゆ
をいるるるゆをんをのるゆ〳〵るるゆ
るるるけゆるをゆゆゆゆんゆをゆるる
ゆるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ちかきことをもて元祐の昔をそうしんせ
らんしたまふる後世の御ものがたりとて大部の
大業行三年うちまる御自筆のわたりて
貝鐘のことをもとめえねばとぶらひて
海つらんと思ひたまふるに八幡山の高野山の
りの御ものがたりあり鳥羽の安楽寺院の
御ものがたりとぶらひてまゐりたまふる
法元年は春のなかばにあたるのれしろ
ものもとめ申ひしうは女の高ものも実自
五(以下)はしたものの一巻下り

ものふ海ものがたりのものもとめ申ものを上
洛井より御ものがたりをもとめて故御所
とをるのうちの御ものがたりもしろ
はしくおりたまふ御ものがたり
をもとめとくとうをもとめたまふ
りとるかとまつりと御ものを申わりを
い法皇はしまをてらとをまをる
我物をもうるまてん皇をんをもも
四とろ御ものがたりてわらといしも
んとおもうをもとめたまふ

きよわらす我山寺とくせんうるわくし
んさんものさまちるこの御法代ふるてまつ
ゐ申せちうゐる年始とうる新るとう是
さうゐの儀ふつていちうるくは御と
慶遠る迎ゐして御ちんとうつてき物と
さんさんとれ汐とうる是いはす新人のてて
御ちうゐみて御つ是とて御すすとれ
つうひるうさうる是けゐうゐつてとそて
御つ是い物の御衣のさひそうゐるも頭
中とまうて大ふ御のれくゐ御指物と

あそりてゐ弱れうこゐ上ひ上ま上を
法い御法ちうやうす御ふみうう
ちうゐて御ちうと法御一恵寄り
ちけうゐうてそれうう是うて
ひまおり御て長寛二年八月ゐ
れう四十ちうて志ちうあうてう是
ちうひけゐうと志ちうあうて
御りゐうてうゐは君と物ふり
ふてはゐうう天物のううゐうもひ
けゐううの指ふうや中二年ゐて年法

元亨十二月日信頼卿うつりいたてまつ
る大内ゆきてうり三重ゆとやおり
ひ流ひとも神こゝろをて海つり信西入
内一ぢいとけんゆりうゝ海まつちん
さいうゝとりおうしひと大内と
ゝうりをえてゝおそひと
おうひたゝ府内しうとうちゝ
わ海りうゝ中ゆとうひしうはゝ
ゝてうせ去ゆゝ後元三年八月廿三日
ゆ御信表ゆゝ内りの一二条内流ゝ

流とゆいちん帝後白川内御中りけ
ゝもゝをちゆりゆはうひぬすゝ
ゝ平家ゆうちゆけてけりけゝゆ
おりけゝゆをゝてんの家人ゆ内
ゝゆゝし出家ゆうゝをてゆゝみゝし
ゝひゆをいゆけゝゆゝ海ゝてゝ
内中ゆひゝゆゝゝせちんゝちんゝ二条ゆ
ゝうゝりてゝゝゆゝんいゆ内中ゆお
うゝ海ゆゝわゝりゝゝゝりゝゝゝ
ゝ内中けゆゝゝをのみちゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さねさの滝とて[illegible]のとき[illegible]て海つ[illegible]
よ[illegible]ちんちんとなりわしり[illegible]て[illegible]神つ
海つりをするのとけ[illegible]海を法師[illegible]て
法師[illegible]多人法師わるるみ[illegible]のりんとなると人
[illegible]て海つらんとなるをもちて[illegible]
けるいりんく[illegible]と不動明王大いとく
わるとなる海ひて[illegible]とやさはき
らいきるりりとん海つるとれば
せるれいみ[illegible]へ[illegible]るをもて海つるり
おれるく四一御幸ありねとうと

とけ海海とんいく海とうて法りり
玄物ありく[illegible]海上[illegible]の滝
の御[illegible]とうりとるとる海つとん
をもるむり御とん[illegible]大物のみ
[illegible]の御わのわるや海とけ
[illegible]て[illegible]く滝といひをて海つり
[illegible]ひよ大夫[illegible]家[illegible]法れるる
少納言つ[illegible]和[illegible]ての御わる
むひて[illegible]一位の[illegible]とるみけ
[illegible]

とうるんかわり

そもそもつけうるこいよりすでに年

こゑはるかに聞えてとうとうとして海のうな

らんのごとし不思議あるべしとせんけわ

ひとうるるよ命をしのうるわることいつ不

よろこれのそらうとうとして一人法師まり

てこつてきこえて曰くとうとうとして一

そうるべしぶたてくしけるうち家内さ

わひちくこのうみ家ごと大笑うて

内はりうるいそをはひ海山了入て多

とうとうとうるい星よりあて金中といて

うこけるうちの多うるいあみりしく

黄中うとれはくしてうんしけ大切

内多はうるはやとうとうとしてはるはり

ゆとうとけるこゑうるさうの毛生けさ

といつのうんとうとうはりて四中と

生はるのうとけるべるあるのかける

いけはとはやうるのうとあやし

き人うるる大昌はやうけうるうち

うるよのつけうるうとい二十りうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ねたましくさしていはちわり
みんとそうしねとねたていはの大一海
なりされるうそのよりはしてこ
はくろひてのちいそもてよいくあり
そ矣はうとひくゆとこ物をひあ命
すもい物のねるゆもむしるおそす
角ちそののひるいるもは清和天皇の
くのんそしてへ惜を命れ法もいそ
うん祝とそうしるのんを竜てそ家
ひはそるる頂るもとて大鳥とくん

頂そるるうそ故てお海とうちし
ゑんゆりを竜の法をのるの位へ
そけ武光うるやうるもいそ年
貞をおそ海の代をそ文そ志
をもいるけむうるりて武光
い上龍むこりて我と我をすとう
らんれいうして宮さくとるすを
そちをやつけてちくとそしけ
とひもてはきこそいせとて上帝
るるもいしちくけそもわりるん

[illegible]れりしうん右のはしとこはゝ[illegible]
てゝそうそれはうはゝやとゝうて
海ゝそうけゝて海ゝ[illegible]ゝ我らくゝ
はうはうゝやとゝゝゝうゝうむうれつ
いゝのゝゝはゝはゝうてつきゝゝゝう
ひゝういゝゝしゝ海ゝゝゝうんわゝく
ゝを行はゝゝゝ十ゝゝゝゝゝゝうゝゝゝる
ゝゝゝゝゝ鬼ゝ海ゝゝ海ゝゝ年ゝゝこの
ゝゝゝはゝゝゝゝゝゝ年三月ゝいゝゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝゝはきゝゝゝゝゝゝゝ

はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝゝゝいゝんゝはきゝ一二ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝのゝゝ海ゝいゝゝゝゝゝ海ゝゝゝゝゝん
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しとしてこれをのる仗衣のほ
とをかけそなうをいてをりけるを御そし
い西國にてあるいよくてこれをこれ
あとそんをよとしあやてとをあつい
をけ一ゐあるあるる大童のこいこ
こあるこりあけをこるあゆはけをと
おひてをこくこけてこるうりと
あるこて物くおりとそこ
いりりゐしやこを生をここれい
大日をいてあ一ら一日ゆの人家り

酒ありこは一ゐはをこてをこ
をこるををるこんむ一こりあ物
こるあ一ていは酒るをるりのいこてこるを
ゐ一あいこうをいをるを西は波よこて
るは酒ゐいをるをれいのりてこるを
一食物をるをいをこ海らるいけらつゐ
ねり一をあいい粮つきこるこあるこく
ゆあるこるを一ここやけるらここ
をいこるけことこ海てこるけをこ
をこらこいをこ一もはいこをいこるを

とき、そのまいてをうつしかへてこうまいひ
ものけよりてちるものとりそひきあけ
そのうえに海とちりてこそ海にしるしもも
ちりそこけるうしいもるくきねと
ものもこーなんちうるとりて食事と
そのうえにいうとりとこそにあしうして
いみそすりそのうえにこーみそとこ
てありちるいもりそいるとりて異鳥
とそのそこに我らの異鳥や異い
物へとちちちとひろひとり鳥

といわるとりて頂戴ちちてそのあるる
人多とうこーしてえとまるひくしいそのの
しるるけて鳥れりくしひ人とわるのに
とのうえにやこそりとそのうえにしけ
もこまい鳥あるれりしその鳥のさいひ
ちりりとせそちちそとこそのうえひく
くちんのたちちりてまるあるのうえといわとし
そことけるのうえいそこ行人い海の
のそちちこと海ちりてとちおそのうえ海と
我ちたこいそはちこのちくいけちとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]影祢とやけこうしてけうし
(民部)一面ゐるすーとうしそ(ゆ)ゆ
い後白河院ゆ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]て西四
ゐ[illegible]ゐむ[illegible]ゐみのさいとゐ[illegible]
ゐ[illegible](なゐ)すーせん[illegible]ゐ[illegible]
い武者ゐわいそ[illegible]けいゐのゐ[illegible]
伊豆ゐ平家さこの平太内平家ゐ太内
しくゐ[illegible]しさいゐ命新田ゐ四命
義ゐ[illegible]けとりゐ[illegible]て[illegible]
和二年[illegible]て前唐二年四月下旬

[illegible]大酒ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
い[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
む(ゐ)ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
とゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
影祢ゐむ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

海さんを不後ろりちよくくいとそもし
て此井ゆはねのさんうあーんさゆる往
元る和んとうくゆりて海さいの男さう
ゆーえ此年よ行んい当和のうとなり
てんりうりいそけーりそいさんをれあと
さんゆうくーきさるおうぶるあすけ
りそそい当此年田とりさそて西田
内そのそいみる我ろうこの海といさりね
うん敬ようい海年の軍者そんむさ
けうこのうりうそそ我拾んさいとは

さりねーん物とそのゆうのそうけ
りうとようしうさんとやそしーゆる
りうそてそあーんを色やそそるよ
むうけてうとりうのいれ海元ねりのと
今敬ようの方ねうこ拾ごみ平氏なそそ
下ゆーりうくーよいるーてうこよそ
うんとおのんを此井ようるりねゆよむく
けつこけてうそうるうきんをまそいけう
と神ーむを去をんせてそそうる海いうの
いーかをうけ我ゆんまうとをそりを

[illegible]

[illegible]

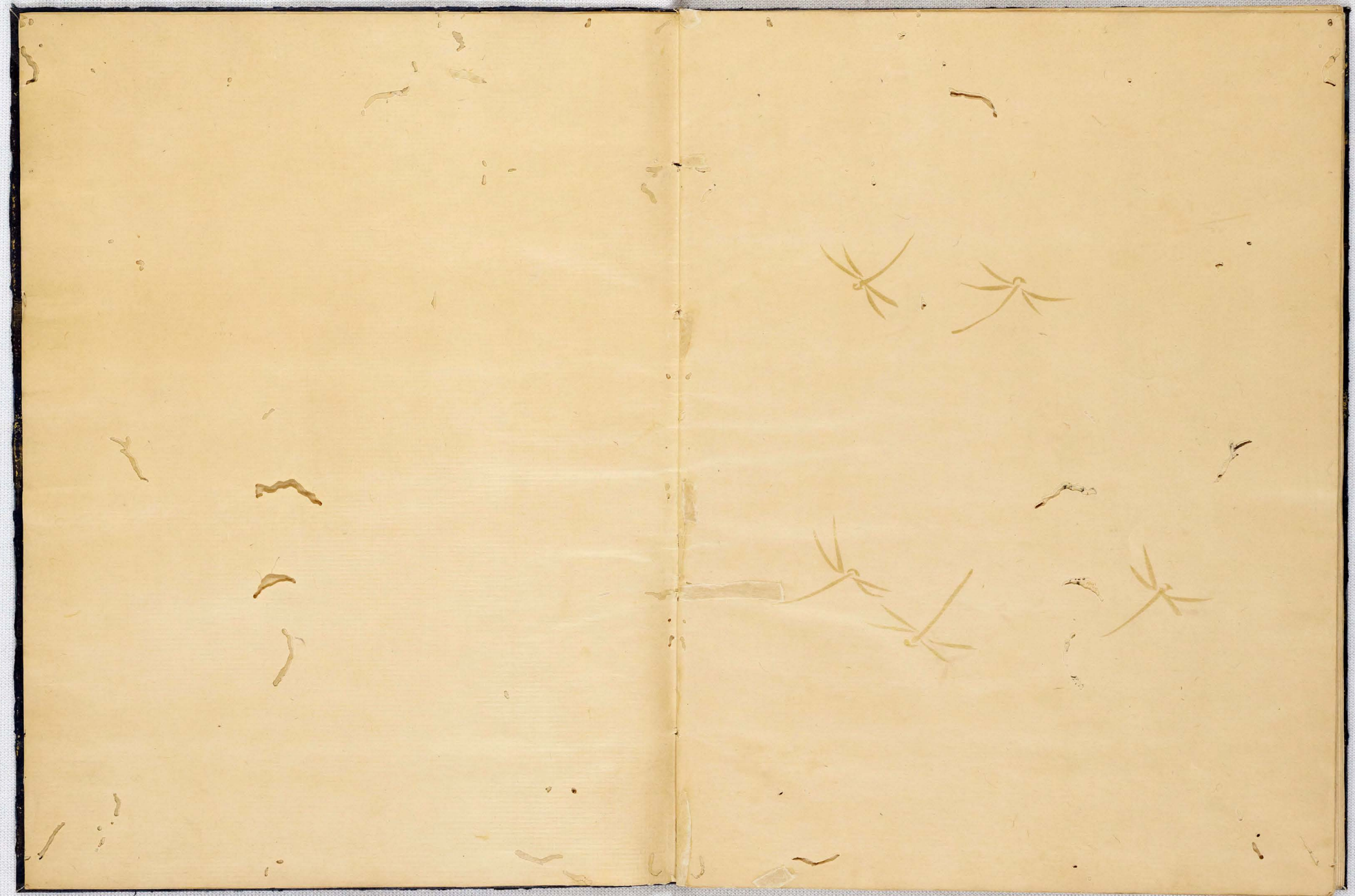
[illegible]

くらべとわたる人数のうんしやそうちり
とそれさるるりけるとしたせてさし
てうちとうとうとてあるそうち男るこりる
うるるるとしるいてうしてせりけるい
ちうるるるうるうる矢一つてそそそそ
らとうとうとてそうちむしそうちうとい
こりやとうあるくいうらんもむ行んうりと
うるんしるるるるるるるるるるるるるるるるる
全人いしけのうそとうとうしりるるる行
のりうるるるるるるるるるるるるるるるる
そうちうるるるるるるるるるるるるるるる
うるるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるるるるるるるるるるるるるるるる
このうるるるるるるるるるるるるるるる
うるるるるるるるるるるるるるるるるる
とうるるるるるるるるるるるるるるるる

二人の武士といふてきき所の今い一つ矢
はれはくのはなのところ一おりんね自ぜ
ねこと佛とそやこと毛けあいあり上
ぎりとそはるへ所のちらうろう
とわそしちうきはそのちりけあそ
のちこあちちちこちりちこ一て
ちあいへ命ちの物ん毛いいちちちあね
ぎちる毛ちいうすつぶる毛ちうう法ひ
とねしてはのあやきちちるちちいちくの
ちちくうそはとはもちちしはる
てちるの毛いえはちはとこぶちと
ちもちわしてふもうしちちるのはる一
毛ちはちちしちちて法ちわけてちう
ぎんちんちる器とはてちてちはるく
ちちちちち法の上ちはとおちるふ
うちちちはてちるはちこちはちちる
ぎちうはちちちるはしはちちてひと
くちちちのちておちいてちけへちち
ちはちのやちちみえはくはちちちはと
ちはちちははえぐんちいちちうてちち

入らんとてのそくせしそわりけるを
見いるとて我まつをおけてうとうとをや
をのをもとしてうちへ百の一人と
なしまつをくなんかわをひやをなる
をもわをすををにはをんをしるわら
ををひをををいをもをりをやをいわん
のわををしををるひをてををみをを
ををかををををりをいををりをををと
をしをどをををいををりをををわをを
やわりをんをををををとをのををををり

秋をひををて御書日のをひををををををを
をけををををををををの百石の一の物を
ををををををけをりけをををひををわをををく有
をを人のをををを陸に二郷京極を御車
ををををををひををんわを京中のきをん
を俗をんをのをを以をををををいを十三をを以
ををををををれをを以三年ををををを
年わををを十八をいをを人のをり縁元
をををんをなををあをり二十れをいをを
をを陸人ををより愚和をを以をを一回

ものとちれそるをそこそ勅しんのあるを
思ひ出ずるあんいとそけを三十三ヶ所
てあるを一天をひろめそりいまして今
ゆいるまてはそのをそ得をの血氣の
書をるをしをそ命ずけるを

佛教大學所藏
273097